

報道関係者各位

2026 年 5 月 4 日

プロピックルボールプレイヤー 船水雄太選手、 PPA ツアー大会で日本人選手初の 4 位入賞

最高峰グランドスラム大会で快進撃。
3 位決定戦に敗れるも、日本人選手として歴史的快挙

米国プロピックルボールツアー「PPA ツアー」に参戦している船水雄太（ふねみず・ゆうた）選手（所属：マイアミ・ピックルボール・クラブ）は、現地時間 2026 年 5 月 3 日（日本時間 5 月 4 日）、米国ジョージア州アトランタで開催された「2026 Veolia Atlanta Pickleball Championships（ヴェオリア・アトランタ・ピックルボール選手権）」の男子ダブルスにおいて、Tama Shibabukuro 選手とのペアで 4 位に入賞しました。

PPA ツアー大会において、日本人選手が 4 位に入賞するのは今回が初となります。さらに本大会は、PPA ツアーの中でも最高峰に位置づけられる「グランドスラム」大会のひとつであり、テニスにおけるウィンブルドンや全米オープンに相当する、年間で最も重要な 4 大大会の一つとされています。

船水選手・Shibabukuro 選手ペアは、第 19 シードとして出場。本戦 3 回戦（ベスト 16）で優勝候補の第 2 シードを破り、準々決勝では 2024 年世界選手権ダブルス王者の Newman 選手を擁する第 9 シードに勝利。日本人選手として初めて、PPA ツアー大会の男子ダブルスで準決勝進出を果たしました。

続く準決勝では第 13 シードに惜しくも敗れたものの、3 位決定戦へ進出。第 4 シードの Federico Staksrud/Roscoe Daescu ペアと表彰台をかけて対戦し、4-11、4-11 で敗れました。惜しくも表彰台には届きませんでした。PPA ツアー大会における 4 位入賞は、船水選手にとって自己最高成績であり、日本人選手としても歴史的な一歩となりました。

船水選手は、2024 年にソフトテニスからピックルボールのプロプレイヤーへ転向し、単身渡米して新競技に挑戦してきました。「日本人初、ピックルボールで世界一を目指す」という目標に向け、今回のグランドスラム大会での躍進は、世界トップレベルへ確実に近づく大きな成果となりました。

■船水 雄太選手 コメント

「3 位決定戦で勝ち切れず、表彰台に届かなかったことは、本当に悔しいです。ここまで来たからこそ、あと一步の重みを強く感じています。

でも同時に、2年前にソフトテニスからピククルボールに転向し、単身でアメリカに渡ってからの挑戦が、少しずつ世界に届き始めていることも実感しています。PPA ツアー、それもグランドスラム大会で、日本人として初めて4位という結果を残せたことは、自分にとって大きな一歩です。

ここまで支えてくれた Tama 選手、サポートしてくださった日米の皆さま、スポンサーの皆さま、そして世界中から応援してくださった皆さまに、心から感謝しています。皆さまの応援があったからこそ、本大会を最後まで戦い抜くことができました。

ただ、僕の夢は、4位で終わることではありません。常に表彰台の一番高いところに立つこと、そして世界ランキング1位になることです。日本人でも世界のトップに立てる。その可能性を、自分のプレーで証明したいと思っています。

そして日本で、これからピククルボールを始めようとしている子どもたちや若い選手たちにも伝えたいです。今はまだ日本では始まったばかりのスポーツかもしれませんが、だからこそ、世界という、大きな夢を描ける競技です。僕自身も、これから挑戦し続けることで、次の世代が『自分も世界を目指せる』と思えるような道をつくっていきたいです。

今回の悔しさは、必ず次につなげます。ここからまた強くなって、日本人初の PPA ツアー表彰台、そして優勝を目指して挑戦し続けます」

■大会経過と試合結果

・64強（本戦1回戦）：2-1で勝利

vs Jagtiani/Serra

11-9、1-11、11-7

・32強（本戦2回戦）：2-0で勝利

vs Ayotte/Ayon

11-4、11-2

・16強（本戦3回戦）：2-1で勝利

vs Alshon/Patriquin

4-11、11-5、11-8

・準々決勝：2-1で勝利

vs Newman/Bhatia

13-11、6-11、11-8

・準決勝：敗戦

vs Garnett/Bellamy

8-11、11-00、6-11

・3位決定戦：0-2で敗戦

vs Staksrud/Daescu

4-11、4-11

■今後の予定

船水選手は、2026年7月1日から4日に東京都（アリーナ立川立飛・ドーム立川立飛）で開催される、PPA ツアー初の東京開催大会「PPA Asia 500 Sansan Tokyo Open」に出場を予定しています。

PPA ツアー最高峰のグランドスラム大会で日本人選手として初の4位入賞を果たした船水選手が、日本で開催される PPA ツアーの舞台に、世界トップレベルで戦うプロピククルボールプレーヤーとして臨みます。

■船水 雄太（ふねみず・ゆうた）選手 プロフィール

5歳から、家族の影響でソフトテニス始める。2009年、東北高校に入学し、インターハイ団体・個人優勝2冠。2012年、早稲田大学に入学。全日本大学対抗ソフトテニス選手権では4連覇し、団体戦・ダブルス・シングルス全タイトルを獲得。2015年、大学4年生の時に世界選手権のメンバーに選出され、国別対抗戦で世界一になる。2016年、全国約200チームあるソフトテニス実業団の最高峰であるNTT西日本に加入し、ソフトテニス日本リーグ10連覇を達成。全日本社会人選手権大会優勝、国体優勝、日本リーグ優勝、日本代表として出場する国際大会で優勝するなど第一線で活躍。2020年よりプロソフトテニスプレーヤーとして活動。

2024年1月より、単身で渡米。2025年3月、米国プロピククルボールリーグ「メジャーリーグ・ピククルボール（Major League Pickleball、略称：MLP）」のクラブ「マイアミ・ピククルボール・クラブ（Miami Pickleball Club）」にドラフトされる。日本人選手として初めてのMLP選手として、ファーストシーズンの後半戦からレギュラー選手として定着し、クラブのプレーオフ進出に貢献。2026年も同クラブの主力選手として再契約が決定。ダブルスの右サイドを専門とし、独特のボレースタイルを有する。1993年生まれ、32歳。青森県出身。

YouTube: ピククルボールジャパン TV (@pickleball-japan)

公式 URL : https://aasmanagement.com/profile/yuta_funemizu/

<参考情報>

【ピククルボールについて】

アメリカ発祥のピククルボールは、テニスや卓球等の要素を併せ持つラケット競技です。バドミントン

と同サイズのコートで、パドルを使い穴の空いたボールを打ち合います。アメリカでは、2025年にピックルボールをプレーした人は2,430万人に達し、2020年から2025年までの5年間で参加人口は479%増加し（※1）、最も急成長しているスポーツのひとつとされています。プロリーグMLPのオーナーには著名人が名を連ね、世界中で市場が急拡大しています。日本でも競技人口が約1年で約10倍の約10万人に到達（※2）するなど注目されています。

※1：Sports and Fitness Industry Association「U.S. Pickleball Participation Statistics」（2026年発表）

<https://sfia.org/research/u-s-pickleball-participation/>

※2：株式会社ピックルボールワン「ピックルボールワン、最新の国内競技人口を推計！約1年で約10倍、10万人に到達」（2026年3月10日発表）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000133975.html>

【本件に関するお問い合わせ先】

AAS Management 合同会社 荻原（おぎわら）

Email：m.ogiwara@aasmanagement.com

Tel：070-8438-5705